

## ○ツクツクボウシ

(Meimuna opalifera Walker)

姫路方面では夏休みの終り頃より現われる出現の遅いセミで何といっても、その鳴き方に特徴がありウホーシツクツクとかツクツクボーシとか、に聞こえてくる。このセミは平地や低山地にも普通に産している。ミズキやエゴ、ヒマラヤスギなどにつく。

## 〈採集例〉

姫路市南畝町 1♂ 20—Ⅷ—1964 col. 相坂耕作  
 姫路市飾磨区入船 1♀ 30—Ⅷ—1982 col. 相坂耕作  
 姫路市四郷町 1♂ 5—Ⅷ—1983 col. 古谷夕子

## ○ミンミンゼミ

(Oncotympana maculaticollis Motschulsky)

ミンミンミンミンミーをくり返し鳴くので、何の蟬かすぐ判る。姫路市の各低山地におり特に書写山には多いようである。サクラやヒマラヤスギにつき、大型の蟬である。

## 〈採集例〉

姫路市書写山 1♂ 31—Ⅷ—1974 col. 相坂耕作  
 姫路市林田町奥佐見 1♂ 13—Ⅷ—1983 col. 前田和彦  
 姫路市広峰山 1♂ 22—Ⅷ—1983 col. 古谷夕子

## ○チッチゼミ

(Melampsalta radiator Uhler)

小型の蟬であり多くないらしく採集例は少ない。出現が9月頃もその要因であるが、海岸から山地にまでいるようである。姫路の男山、藤の木山などで記録があり、書写山にはいないようで、増位広峰山系でも1982年度の環境調査の際も得られていないようである。たまたま筆者の工場で2度も採集したので採集例を記しておく。またこの蟬は夜間水銀燈にきていたものらしく、2度とも筆者の工場の水銀燈下で得られたものである。鳴き方はチッチッチでアカマツ・スギなどにつくという。

## 〈採集例〉

姫路市飾磨区入船町 6—Ⅸ—1982 col. 相坂耕作  
 姫路市飾磨区入船町 12—Ⅸ—1980 col. 相坂耕作

以上8種の記録を得て姫路市に生息する蟬相の大体のようすが判かって頂けたと思う。しかしこれは採集の一例であり以後も採集記録等を充実して完全な蟬相となる様にしたいと思います。なお兵庫県下には13種のセミが知られており、姫路市のセミ科の貧弱さが判って頂ける。その要因としては、姫路市には標高の高い山(書写山で363m程度)がなく高地性のセミであ

るコエゾゼミ・エゾハルゼミ・エゾゼミなどが生息していないからである。しかし昨年(1983年)度の姫路市立科学館主催の児童生徒の創作工夫採集品展にて当地でのエゾゼミの採集品を見たが筆者としては、あまりにも古い標本で他のラベルと較べるとテタラメが多く数年以上たった他府県の標本であると思われ記載しなかった。またエゾゼミは標高の關係からと、一部の人の目撃例などもあり分布可能な種とあげられる。

姫路の隣りの加西市ではヒメハルゼミが分布しておりこの種はシイ林に住んでいるということで、書写山や竜野の鶏籠山などにシイ林があると聞かすが、このセミはシイ林があっても生息しないところがあり、特に樹齡が若く見えても、おそらく4~5,000年の昔からのシイ林でないといけないという。難しい問題があり、分布はしないと思われる。

## 参考文献

- 桑原 一(1976) 増位山のセミ 趣味の生物No.18  
 姫路西高等学校生物部  
 奥谷禎一(1976) 県下のセミ 新・兵庫の自然  
 兵庫県生物学会編

(S. 05 : Kousaku Aisaka

姫路市

)

## マツノマダラカミキリの天敵の一つ

黒田 収

マツノマダラカミキリはマツノトビロカミキリとも言われ、トビ色のあまり美しいカミキリではなく、毎年初夏になると新聞紙上をにぎわす害虫である。

1983年7月中旬、姫路市内の北部にある広峰山の登山道路上にてスズメに捕食されているマツノマダラカミキリを目撃した。発見当時は捕食されている昆虫が何んだか判断出来なかったが、車を止めて確認してみると、腹部の比較的やわらかい部分を食いちぎられ、頭部と触角及さやばねのみのマツノマダラカミキリを発見したのである。腹部がないのにもかかわらず、さかんに触角を動かしていた。以上のようにマツノマダラカミキリの有力な天敵の一つにスズメが加わっているものと思われる。

(S.14 : Osamu Kuroda 姫路市

)